

「豊かな暮らし」とはどのような暮らしだと思うか、 考えを広げよう・深めよう

はじめに

私は児童一人一人が、生涯にわたって幸せになってほしいと願い、日々教育活動に携わっている。JICA教員海外研修の事前研修や実地研修を通して、多くの場面で「幸福の価値基準とは何か?」「豊かに生きるとはどういうことか?」と考えさせられた。近代的で衛生的、ものにあふれていて一見「豊か」なように思える日本だが、2024年の世界幸福度ランキングでは143か国中51位となっている。一方、アジア最貧国といわれるラオスを訪れると、便利で快適とは言い切れない生活を送っているように思われたが、多くの人は笑顔で温かく私たちを受け入れてくれ、隣人と支えあって生活し、彼らの時間は余裕をもってゆったりと流れているような気がした。

幸せとは何か?豊かに生きるとはどういうことか?一人一人にとってその答えはさまざまであろうし、答えを見つけることは容易ではないが、問いをもち答えを探究し続けること、他者の考えを受け入れ新たに見方を広げていくことが、幸せに生きることにつながると感じた。

多様な価値観や考え方にふれたり、自分の思いを言語化したりすることで、新たな答えを見つけ、よりよい自己の生き方を考え行動できるようになってほしいと願う。

この教材の使い方

本教材はラオスを訪問して見聞きしたこと、体験してきたことをもとに作成したため、ほぼすべてがラオスについての内容となっている。しかし、対象の児童生徒に応じて、学習したい国や指導者が行ったことのある国などの内容に差し替えたり、補足説明を加えたりすることでアクティビティを行うことができるので、アレンジして活用してほしい。

全体のねらい

- ・ラオスについて知ったり、日本と比較して考えたりすることを通して、人々の文化や生活、考え方は多様であると理解するとともに、世界の国々に興味関心をもつ。
- ・「幸せ」「豊かさ」とはどのようなものか考えることを通して、良い生き方について考えを深める。

アクティビティ1 「ラオスについて知ろう！」

●概要

本単元の学習の導入として取り扱う。

●ねらい

ラオスについて知ったり、日本とラオスとを比較して考えたりすることを通して、世界の多様性を感じるとともに外国への興味・関心を高める。

●主な対象

小学生

●用意するもの

- ・パワーポイント（P32～33）
- ・伝統衣装、お札、工芸品など

●所要時間

45分

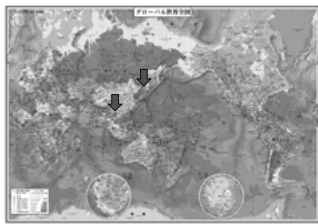
●すすめ方

学習活動・内容・問いかけ	留意点（ポイント）
1. ラオスの基本情報（パワーポイント 1～9 / P32）について知る。	児童に知っていることを尋ねたり、答えを予想させたりしながら、発言しやすい雰囲気をつくる。
2. パワーポイントの写真（P33）を提示し、それぞれの写真が撮影されたのは日本・ラオスのどちらかを考える。	日本・ラオスのどちらだと思うかを挙手させ、意思表示を促し全員が参加できるようにする。 クイズの答えを示しながら補足説明を加え、ラオスについてさらに興味関心が高まるようにする。
3. 教師の経験したことや訪問の感想について話を聞く。	写真よりも、動画や実物があるとより伝わりやすく、興味関心を高めさせることができる。
ふり返し 授業の感想をノートに記入する。 ・知る前と後で自分の気持ちやイメージにどのような変化があったか。 ・疑問に思ったこと、もっと知りたいと感じたこと。	さらに詳しく知りたい、調べてみたいと思ったことについては、別で時間を取りインターネットや書籍を使って調べ学習を行うとよい。

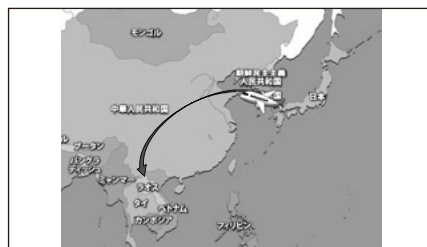
パワーポイント（見本）

※データはウェブ上からダウンロードしてください。

ラオスについて知ろう！



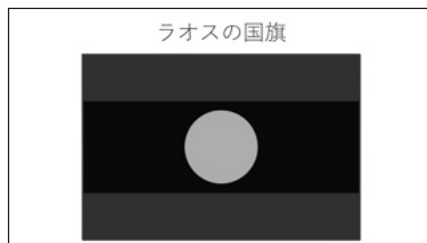
日本とラオスの位置



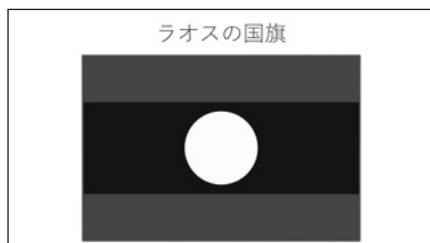
日本からの移動にかかる時間



日本とラオスとの時差



（白黒で表示する）



ラオスの国旗



ラオスの国土面積



ラオスの人口

クイズ！
ラオスでしょう？
日本でしょう？



ラオスで走るトヨタのハイエース



福岡県上空からの街の様子



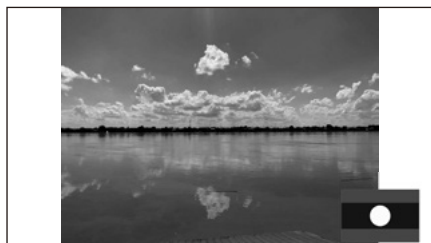
ビエンチャン上空からの街の様子



山口県秋吉台のカルスト台地



ラオス上空からの山の様子



メコン川



山口県秋吉台サファリランド



ラオスを走る原付



ラオスを走るトラック（荷台に乗る人）



ラオスのセブンイレブン



ルアンパバーンの市場の様子



ルアンパバーンの屋台寿司



市場で売られる昆虫（食材）



屋台の昆虫スナック



ラオスの紙幣（多民族の女性）



工芸品のコースター・ランチョンマット



夜市のおみやげ物

●資料・解説

【ラオスの基本情報】

- ・ラオス民主主義人民共和国 面積：約24万平方キロメートル（日本の本州くらい）
（東南アジアの内陸国）
人口：約740万人（埼玉県民くらい）
首都：ビエンチャン
通貨：キープ（1,000キープ=約7円）
- ・ラオスの国旗の赤色：独立闘争で流された血や犠牲、青：メコン川や国の繁栄、白：平和、輝かしい未来の展望、白い丸：満月、共産主義 をそれぞれ表している。
- ・ラオスは5つの国に囲まれた内陸国であり、アジア最貧国といわれている。
- ・ラオス国内では、トヨタのハイエースやハイラックスがたくさん走っている。電化製品も、日本製品が多く使用されていた。
- ・ラオス国内の道路は様々な国の支援で整備されている。そのため、様々な国の様式の信号機が設置されている。交通ルールについての取り締まりは甘く、事故も多い。
- ・ラオスには海がないため、魚は川魚を食べることが多い。冷凍で輸入する海水魚が提供されるお店もある。
- ・ラオスでは昆虫食が一般的であり、市場では様々な種類の昆虫が売られている。調理されたものが売られている屋台もあるが、地元の人は新鮮なものを食べるために生きたままの昆虫を購入することが多い。
- ・ラオスはおおよそ50の民族が暮らす多民族国家であり、1,000キープ（約7円）紙幣には様々な民族衣装を着た女性たちの姿が写されている。
- ・ラオスは優れた織物の産地で、手先が器用な労働者が多い。

【児童に伝えた教師の体験談、感想】（写真、動画を交えて紹介）

- 食事について……………カオニャオというもち米が主食で、手を使って食べたこと
フルーツが大きく立派でおいしく、特にマンゴーをたくさん食べたこと
昆虫食が一般的で、屋台で買って食べてみたこと
おいしい料理やお酒が多く、太って帰ってきたこと
- ホテル滞在について…エアコンが使用でき、お湯も出て快適だったこと
水道水は飲むことができず、毎日ミネラルウォーターを飲んだこと
家電に日本製品が多かったこと
- 人々について……………朗らかな表情の人が多く、せかせかしていなくて幸せそうだと感じたこと
ホテルのスタッフや移動車の運転手さん、ガイドさんが親切にしてくれたこと
- その他……………市場には生肉が並んでおり、においがすごかったこと
セブンイレブンには多くの商品が並んでおり、想像より発展していると感じたこと

アクティビティ2 「ロンラオ村を開発しよう」

●概要

「豊か」とはということか、考えを深める。

●ねらい

ダイヤモンドランキング、家族コメントカードを読むことを通して、世界の人々が豊かに生きるために大切なものは何だと思うか考えを深める。

●主な対象

小学生

●用意するもの

- ・パワーポイント（P41～42）
- ・開発カード（P37）：グループ数分（9枚1セット）
- ・ダイヤモンドランキングの台紙（P38）：グループ数分
- ・SDGs17の目標のポスターなど（パワーポイントに入れても良い）
- ・ラオスの家族、日本の家族のコメントが書かれたカード（P39）：グループ数分
- ・ワークシート（P40）：全員分

●所要時間

90分（45分×2回）

●すすめ方

学習活動・内容・問いかけ	留意点（ポイント）
1. ロンラオ村について知る ・ 周囲の環境 ・ 家の様子 ・ 村の中の様子 ・ 水事情	スライドショーを使って説明する。実際にホームステイしてみて感じたこと、考えたこと、他の参加者の所感なども伝えた。
2. 自分ならどのように村を開発していきたいか、グループで意見を出し合う。	考えのヒントとなるよう、SDGs17の目標が描かれたポスター等を掲示する。
3. 班で出た意見を全体で共有する。	出た意見は肯定的な言葉で受容し、近しい意見をグルーピングしながら板書していく。

4. 開発の案の中から特に賛成の多かった9つに意見を絞り（P37「開発カード」）、班ごとに話し合いをしてダイヤモンドランキングを作成する。 5. どのようにランキングしたのか、なぜそのようなランキングにしたのかを全体で共有する。 6. 家族コメントカードをグループに配布する。児童はコメントを参考に、活動の中で「豊かさ」とはこういうものかな？と気づいたことをワークシートに記入する。	対象児童の実態に応じて、教師側が意見を9つに絞っても、児童に選ばせてもよい。 時間内にダイヤモンドランキングが完成しなくてもよい。意見をまとめることが重要なのではなく、自分の意見を出し、他者の意見を聞いて話し合うことが大切であるということを児童に伝える。 日本とラオスを比較することで、自分たちの生活で当たり前だと思っていたことがそうではないということに気づけるようにする。 日本・ラオスそれぞれの生活の中にある「豊かさ」を見つける。
ふり返し 授業を通して感じたこと、思ったことを記入する。	

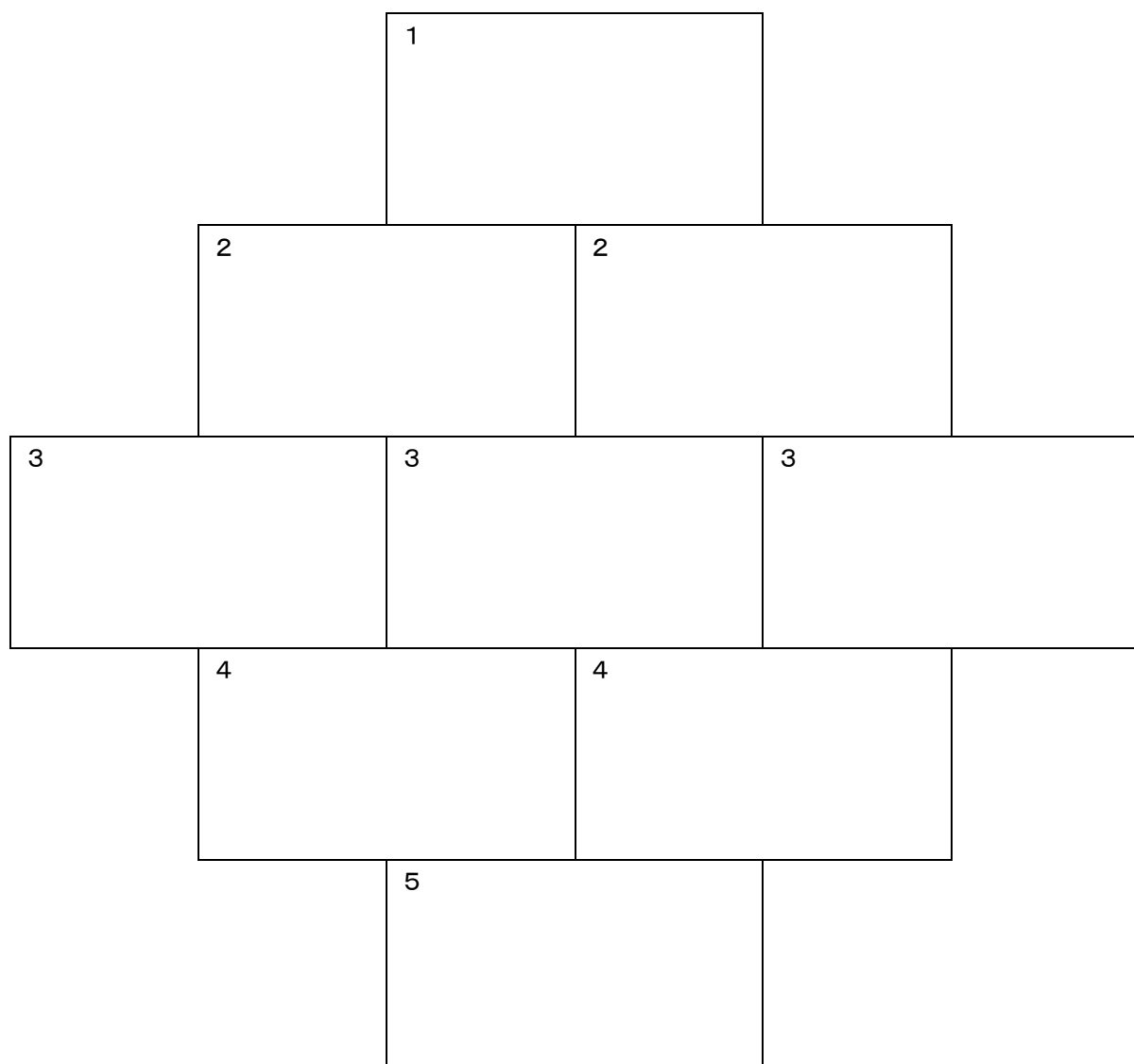
開発カード（見本）

※下記は児童から上がった意見をもとに、作成者が加筆修正したものです。

※グループ数分コピーをして、予め切り離しておくこと。

大きなスーパーを建て、 いろいろな食べ物が 手に入るようにする	電線をたくさん通して、 どの家も照明やコンセントを 使えるようにする
図書館を建て、 いつでも読書や勉強を できるようにする	病院を建てて いつでもちりょうを うけられるようにする
雨風がしのげる じょうぶな家を建てる	村から街への道をせいびして 仕事や遊びに 行きやすくする
アンテナを建てて テレビやインターネットを 利用できるようにする	ごみしゅり場を建て、 村のごみを 分別、しょぶんする
浄水場を作り、 おふろやキッチンで 水を使いやすいようにする	

ダイヤモンドランキングの台紙



どうして1位をこれにしたの？

どうして5位をこれにしたの？

家族コメントカード

※グループ数分をコピーしてください。

ラオスのあるお父さん

わたしの仕事は、かごをあむことです。あんだかごを、月に1回まちへ売りに行きます。
収入は少ないですが、家族と一緒に野菜を育て、村の人たちと協力しているので、食べるものにはそこまで困っていません。

ラオスのある女の子

私は10才です。いつも家の農業を手伝っているので、小学校へは行けていません。字が読めないで、大人になっても農業をして生きていくと思います。村には友達がたくさんいて、ねる前まで外で一緒に遊びます。

ラオスのある男の子

ぼくの家族はご近所さんと仲良しで、夕方になるとよくみんなで集まって、一緒にご飯を食べたり歌ったりしてすごします。そこでよくユーチューブを一緒に見ますが、ぼくの家にはテレビもスマホもありません。

ラオスのあるお母さん

私は山の上にある村に住んでいます。私は自宅で出産をしました。出血がひどくてあやうく命を落とすところでしたが、村の仲間が助けてくれました。病院は遠いし道も悪いので、行くことはありません。

日本のあるお父さん

わたしの家の周りには、駅や学校、病院、大型のショッピングモールがあります。休日には家族で買い物に出かけます。生活するには便利ですが、夜でも交通量が多く、車の音や排気ガスが気になっています。

日本のある男の子

ぼくはゲームが大好きです。学校や習い事の時間以外はいつでもゲームをすることができます。土日にはお菓子とジュースをもって友達の家へ行き、一緒にゲームをして遊びます。

日本のあるお母さん

私の家族は主人と子ども2人の4人家族です。家族のためにご飯をつくったり洗濯をしたりと、家事はほとんど私がします。仕事で主人の帰りは遅いですが、家族は仲良く、夏休みには毎年大阪や沖縄へ旅行に行きます。

日本のある女の子

私は高校生です。週に4日、じゅくに通っています。家族や友達とすごす時間はへってしまったけど、医者になって人の命を助けるという夢をかなえるためにがんばっています。

総合学習

名前()

め

豊かさって、こんなこと？



め

パワーポイント（見本）

※データはウェブ上からダウンロードしてください。

ロンラオ村の ホームステイ生活

※どうすれば、ロンラオ村のくらしが
もっと豊かになるか、
考えながら写真を見てみよう



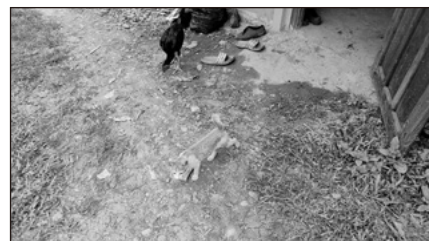
ロンラオ村までの道中



ロンラオ村入り口、民族衣装



村の中に住む水牛



村の中に住む猫、鶏



村で一番大きな家



集会所での夕食会の様子



村の商店に集まる子供たち



村の中で遊ぶ子どもたち



スマホゲームをする子どもたち



屋外で調理する様子



屋外で調理する様子



夜の商店兼調理場



村の一般的な家の中の様子



村の共同水栓



ホームステイで宿泊した小屋の様子



村の共同トイレ



村の中に散乱するプラスチックごみ



●資料・解説

【ロンラオ村に実際にホームステイしてみて感じたこと、考えたこと、村で過ごしてみての感想】

- ・ロンラオ村はルアンパバーン群市街地から車で1時間ほどの場所にある。
- ・村までの山道は舗装されておらず、大きな溝がたくさんあった。雨の日にはタイヤがぬかるみにはまり動けなくなることもある。
- ・ロンラオ村には「ラオ族」が住んでいる。歩いてすぐの場所に隣の村があり、「モン族」が暮らしており、そこには学校がある。学校周辺ではWi-Fiを使用することができる。
- ・村では農業を行うために水牛を放し飼いしている。農業機械はなく、水牛の力を借りながら手作業で作物を栽培、収穫している。
- ・村には一軒の商店があり、村人は消耗品や食料品などを購入している。村長さんの家族が商店を営んでおり、村の中で一番大きな家に住んでいる。その家と村の集会所には電線がひかれ、冷蔵庫や照明、無線LANを使用することができる。その他の家には電気は通っていない。
- ・村の子供たちは学校で教育を受けている。ラオス国内の識字率は80%ほど。学校では基本的にラオ語が使用されている。モン族の村にいた12歳の女の子とは、英語でコミュニケーションをとることができた。
- ・ラオスの子供たちは学校が好きな子が多く、いじめはほとんどない。(ラオス教育政策アドバイザー長岡さんのお話より。)しかし、農業など家業を手伝うために学校に行くことができない子もいる。
- ・村にガスは通っておらず、焚火で調理をする。
- ・水道はなく、地下水を貯めている共同水栓の水を使って調理や水浴びなどを行う。トイレでも、バケツで汲んできた水を使用し排泄物を流していた。
- ・村の商店ではプラスチックで包装された商品も販売されている。村ではゴミをゴミ箱へ入れたり分別したりする習慣がなかったため、村のいたるところにゴミが散乱していた。
- ・村にはないものについても伝える。(病院、郵便局、役所、銀行、浄水場、発電所など)
- ・夜には虫の声、朝には動物の鳴き声が聞こえた。大自然の中で過ごすのは、キャンプをするみたいで楽しかった。子どもたちとの遊びや調理の場面では、少ない道具を工夫して活用し生活する面白さを感じた。「便利=幸せ」ではないと感じた。
- ・水回りの設備が日本と比べて乏しく、入浴や排せつには心理的な抵抗感があった。それを楽しめる参加者が多かったが、私は「日本っていいなあ」と思ってしまった。
- ・お昼の暑い時間には、現地の人は暗く涼しい部屋に集まってカラオケを楽しんでいた。涼しくなった外に出て活動する。日本人の生活と比べてのんびりしていて、羨ましいと思った。

実践事例報告

プログラム作成・実践者 黄 杏子

学 校 名 山口市立上郷小学校

担当学年 4年生

実践教科 総合的な学習の時間

【授業の概要】

(1) 単元のテーマ

「豊かなくらし」について考えを深めよう。

(2) 単元のねらい

ラオスの街の様子やロンラオ村での生活、日本やラオスにおける国際協力などについて知り、村をどのように開発したいかを話し合ったり、日本のくらしとの相違点について考えたりすることを通して、「豊かなくらし」とはどのようなものか考えを深め、これからの生き方をよりよくしようという気持ちを育てる。

(3) 概要 全4時間

① スライドショーでラオスクイズや動画の紹介を見たり、ラオスのお札や籠、布など実物に触れたりすることを通して、ラオス国内の様子や人々の暮らし、文化などについて興味関心を高め、理解を深める。(アクティビティ1)

- ・ラオスの人口、国土の広さ
- ・日本からの距離、時差
- ・交通事情
- ・市場の様子、食文化
- ・民族と手工芸品
- ・現地の人々の様子

② 国際協力について、日本の戦後復興が外国の支援によって進んできたことや、これまで日本がラオスに対する様々な支援を行っていること、現在多くの日本人が海外青年協力隊としてラオスに派遣され活躍していることを知る。

- ・日本の戦後復興（ダム、新幹線、高速道路、学校給食）
- ・東日本大震災の際に日本が他国から多額の支援を受けたこと
- ・バンクーン教員養成校
- ・デナイモ浄水場
- ・ナムグムダム
- ・セタティラート病院
- ・みんなのカフェ
- ・子ども文化センター
- ・リーガルプロジェクトオフィス

- ③ ロンラオ村の暮らしについてスライドや動画での紹介を通して知り、自分たちならどのように開発を進めていきたいか、班で話して意見を出し合う。(アクティビティ2)
- ・ 周囲の環境 (自然に囲まれている、舗装されていない道路など)
 - ・ 家の様子 (木や竹で作られている、簡素な家具など)
 - ・ 村の中の様子 (動物がいる、商店がある、プラごみが落ちている、病院がないなど)
 - ・ 水事情 (共同水栓、トイレなど)
 - ・ その他人々の様子 (裸足で歩いている、スマホをもっているなど)
- ④ ロンラオ村の開発についてダイヤモンドランキングの形にまとめたり、日本の家族とラオスの家族の暮らしを比べたりすることを通して、「豊かなくらし」に重要なことは何だと思うか話し合い、「豊かなくらし」について自分の考えを深める。(アクティビティ2)
- ・ 日本の豊かさ
 - ・ ラオスの豊かさ
 - ・ これから自分が大切にしていきたいこと

(4) 指導上の留意点

ラオスをはじめとする発展途上国について、「危険で近寄りがたい」「かわいそう」といった偏ったイメージ、先進国のほうが上だといった感覚をもたないように、豊かな大自然や農作物、省エネ・省資源で自然に優しい暮らしをしていることなど、日本にはないラオスの良さを伝えていくよう努めた。

また、担当する学年の児童だけでなく、他の学年の児童や授業を参観した保護者にもラオスに興味をもち、より身近に感じてほしいと思い、授業で取り扱った内容について大判用紙で掲示をしたり、実物を見て触れるようにラオスの人が手作りした工芸品や伝統衣装のシン、ラオスのお金などを展示したりした。

(5) 児童生徒の感想や学び・気づき

授業の初めに、児童に「豊かな暮らしとはどんなものだと思いますか？」とアンケートを行うと、「食べるものに困らない」「1つのボタンで家事ができる」「お金持ち」「トイレやお風呂に毎日入れる」「穏やかで楽しいくらし」など様々な意見が挙がった。児童の多くは、日本のような近代的で衛生的な暮らしが「豊か」であるのとらえているようであった。

ラオスの文化や人々の暮らしについて児童に紹介したところ、「日本の暮らしのほうが安全で快適だと思う」「私はここでは生活できなさそう」と否定的な感想も見受けられたが、写真や動画に映る人々の表情から「ラオスの人々の暮らしは豊かではないのか？」と考えると、「僕たちにとっては不便でも、村人たちにとっては当たり前のこと」「村の人達が笑顔で、仲がよさそう」「便利なものなくても、何だか楽しそう」「自然がいっぱいでストレスが少ないのかも」と肯定的な反応も見られるようになった。

開発について話し合いながらダイヤモンドランキングを完成させていく中で、世界の人々がより幸福に暮らしていくために、SDGsの目標の重要性を感じることもできた様子であった。SDGsの各項目については、小学校4年生の発達段階では理解が難しい部分もあったが、学習を進めていく中で「豊かだ」と思っていた日本の暮らしにも「ジェンダー平等」「つくる責任 つかう責任」などに課題があるということを知り、「性別だけで決めつけないようにしたい」「ゴミが出ないような商品を選びたい」など、自分たちにできる取り組みを考えることができていた。

また、本実践の第4時は保護者参観授業で行い、話し合いの場では保護者も意見交換に参加していただいた。様々な視点からの意見を交流することで、「豊かさ」についての見方・考え方が広がり、

深まったようである。授業後の保護者アンケートでは、「子どもたちにとって、世界について知る良い機会となった」「家庭でも授業の内容について話し合い、何が人生の幸せか子どもと一緒に考えることができた」との感想をいただくことができた。

【授業実践をした上での感想・ふり返し】

ラオスについて紹介をすると、子どもたちは興味津々でたくさんの質問を私に投げかけてきた。初めは名前も知らなかった国のことなのに、この授業をきっかけに関心を持ち、インターネットで気になったことを調べている児童もいた。様々なことに興味をもつチャンス子どもたちにたくさん作ってあげることが、教師としての大変重要な役割であると改めて感じた。

ダイヤモンドランキングのアクティビティにおいては、村の中で大切にしたいことを順位付けする中で、子どもたちの中で意見が分かれ活発に議論を交わす姿が見られ、世界の人々がどうすれば幸せに生きていけるのかを真剣に考えてくれたことが分かり大変うれしく感じた。

また、授業の中で「社会で学習したごみの分別について、ラオスの人に教えてあげたい。」「自分が着られなくなった服を送ってあげたい。」といった発言をする児童が数名いた。行事や時数の都合でそのような活動まで発展させることができなかったことが悔やまれたが、そのように積極的に関わっていかうとする態度を大いに価値づけた。子どもたちには、世界で起こる様々な事象についてただ傍観者になるのではなく、当事者意識をもって自分にできることを考え、行動することができる人になってほしいと願っている。



ロンラオ村について紹介する様子



廊下の掲示物